

子どもたちの「あふれる笑顔 きらめく瞳」をめざして



中学校区一貫教育校園 玉野市立玉小学校 学校だより第36号（令和5年3月7日）

青少年健全育成だより

“みちびき” よい

文字ばかりですが
読んでください

以前にこの学校だよりで「《発信》から《交信》へ」という題で、玉野市青少年サポートセンターが発行している“みちびき”に載った文章を紹介しました。（スマイル第29号参照）

昨年12月に玉野市青少年サポートセンターから“みちびき”の原稿依頼がありました。その時に「教頭の時に書きましたよ～」と一応言ってみました。が、「校長先生としては書かれてないですね」と言われ、「まあ…そうですね」…また書くことになりました。それが以下の文章です。【みちびき（令和5年1月号）に掲載 原文のままです】

私は小学1年生

玉野市立玉小学校
校長

平成30年、私は、それまでの24年間、慣れ親しんだ玉野市から、誰一人知らない土地へ新任校長として飛び込みました。不安はありましたが、先生方、保護者・地域の方々に大変良くしてもらい、生徒たちの頑張りにも助けられました。毎日、往復120kmを走った4年間、【人】という財産をもったように思います。

そして今年度、私はまた玉野市での勤務となりました。ただそれまでと大きく違うのは、35年間の【中学校勤務】から人生初の【小学校勤務】となったことです。いわば私は【小学1年生】。【小学1年生】ならではの新鮮な気持ちで【小・中】について考えてみました。

まずは【小・中】の違いです。例えば1日の流れ（業間、給食時間の長さ）、日中の職員室の人口密度の低さ等のシステムや教科や学習内容、課題の出し方、指導方法、学校のきまり・・・挙げればたくさんあり、日々新しい発見があります。

次に、私の【見方・考え方の変化】です。中学校に勤務していた頃は、私だけかもしれませんが「小と中はつながっているけれど、それぞれの楽しさ・難しさ、担う役割があるのだから、違って当然。」という考えから【小は小、中は中】のような壁を作り、様々な違いの理解不足で、中学校側からの一方的な見方をしていたように思います。

しかし、本校の教職員が児童と様々な場面に関わる姿を見て、小学校側からの見方をもつようになりました。なぜなら、例えば、低学年では、児童がひらがな、カタカナ、九九等をはじめとする学習の基礎や道徳性・社会性を養い、できることが増えるように一つ一つ丁寧に指導する姿、中学年では低学年で築いた基盤をもとに児童がいわゆる“9歳の壁”を乗り越えられるように寄り添ったり、自分のことだけではなく少しずつ下学年のお世話ができるように指導したりする姿、高学年では、児童が次のステップに進むために「自分たちで課題を見つけ、考え、行動し、振り返る」しかけを多く取り入れ、主体性を養うように指導する姿等に多く触れたからです。教職員との日々の関わりの中で「発達段階に応じた取組や声かけ、学習の積み上げ等、丁寧に指導して中学校に送り出してくれていること」を肌で感じ、感謝しきりです。

逆に「この子どもたちが中学生、そしてその先の将来のために、どんな力が必要か？小学校で何を身につけておかないといけないのか？」という中学校側からの考え方をよりもてるようになりました。

最後に、玉野市では数年前から中学校区一貫教育が始まっています。園小、中高も同じだと思いますが、様々な機会に情報交換を行い、互いの違いを理解・尊重した上で、情報共有や学びあいを進めることが肝要であり、校長として、それを目指して取り組みたいと思います。また私自身、これからも順算（積み上げ）と逆算（ゴールから）の2つの考え方で子どもたちをみていきたいと思っています。

“みちびき”は、玉野市内の園・小・中・高の先生方に配付されるものであり、私が与えられた文字数は1200文字以内だったので、児童のみなさんや保護者の方に知っておいて欲しい思いや、書き切れなかった思いを段落ごとに書きます。(②はみなさんも知っていることなので、省きました)

① 平成30年 ～ 4年間、【人】という財産をもらったように思います。

学校への行き帰り、毎日、高速道路を使っていました。家から学校まで片道70分かかると言う遠い場所でした。ある時、一緒に働いていた先生が私に「校長先生、この学校は遠くても来なくなる学校でしょ。」と言われました。まさしくその通りの学校でした。

玉小でも同じように、様々な方に大変、良くしてもらっています。玉小も「とても良い学校」だと思っています。

③まずは【小・中】の違いです。 ～ 日々新しい発見があります。

例えば…

○給食時間の長さ…中1の担任をしている時、給食時間の短さに入学したばかりの生徒たちはとても驚いていました。(今よりも15分ほど短いです。すごいギャップを感じるようです。)

○授業…小学校は基本的に学級担任が、中学校は毎時間先生が変わる教科担任制です。

○課題の出し方…小学校は基本的に次の日に提出、中学校は〇〇日後とか1週間後などです。(だから、提出日から逆算して、いつするのかという考え方が必要になります。)

④次に、私の【見方・考え方の変化】です。～一方的な見方をしていたように思います。

中学校にいた頃、「小学校でもっと〇〇をしておいてくれたら良かったのに…」と一方的に思っており、当時、小学校の先生方にも言っていました。いわば【要求】ばかりにしていたように思います。(〇〇には、例えば【基礎学力の定着】【学習習慣づくり】【情報モラル】などです)さすがに教頭・校長になってからはなくなりました。

⑤しかし、本校の教職員が～感謝しきりです。

⑥逆に「この子どもたちが中学生 ～ 中学校側からの考え方をよりもてるようになりました。

小学校は中学校と比べ、子どもたちの発達段階に差があります。1年生と6年生を比べたら、その差は歴然です。小学校に来て、先生達が、それぞれの発達段階に応じて、生活・学習等の順算(積み上げ)をしていることを知り、「今まで勝手な要求ばかりしていたなあ」と反省しました。ただ順算(積み上げ)に加え、逆算の考え方も必要です。

中学校で義務教育は終わります。その先は当然“義務”ではないので、子どもたちは、自分の希望でそれぞれの道に進むことになります。子どもたちの多くは、当面の進路として高校を選び、受験をします。その結果で、人生の全てが決まるわけではないけれど、小学校から中学校に進んだ時とは**大きく違う分かれ道**です。

私が若い頃、先輩の先生に「**15の春は泣かさない**」とよく言われてきました。(15の春とはちょうど中学校を卒業して、次の進路に進む時です)この言葉の本来の意味は違うようですが、我々は「泣かさない(受験に失敗させない)」「自分の希望する進路に進んで欲しい」「自分の居場所を見つけて、そこでやっていける力をつけて欲しい」という思いから、生活や学習について、あれこれと言ったり、行ったりしてきました。その中には、子どもたちや保護者の方にとって、いやなこともあったでしょう。結果として、全ての子どもで「15の春は泣かさない」を実現することは、とても難しいことでしたが、15の春から逆算して、中学校入学時より様々な取組を行いました。この「逆算」の考え方は小学校にはあまりないかもしれませんが、**中学校の生活や学習は小学校での生活や学習が基盤となっています。さらに小学6年生の生活や学習は小学5年生までのものが基盤となり、小学5年生の生活や学習は小学4年生までのものが……。**要するに「**今と将来はつながっている**ので、**今の生活や学習が、将来の自分に関わってきます。**だからこそ**将来を見据えた“今”を大切にしよう!**」ということです。この気持ちは、児童のみなさんと保護者の方、先生達と同じ思いでいたいです。

⑦最後に ～ 2つの考え方で子どもたちをみていきたいと思います。

学校園の先生方に向けて書いた部分です。園・小・中・その先は全てつながっています。ただ「15の春は泣かさない」と言っても低・中学年が「15の春」を見通して、生活や学習をがんばれるか?と言ったら、あまりにも期間が長いです。

そこで来年度は「**1年後のなりたい自分の実現に向けて、具体的な目標を立て、定期的に振り返る取組**」を進めたいと思います。

